

## 会議概要記録

件名	令和6年度 第1回鹿児島市健康増進計画推進検討委員会	作成課	保健部 保健政策課
日時	令和6年8月1日（木）15時30分～16時30分		
場所	別館300会議室		
出席者	委員 17名（欠席9名） 健康づくりの普及に関係する団体の代表者11名（代理出席含む）、公募委員3名、行政の代表者3名		
市出席者	事務局：4名 保健政策課長、健康づくり係長、係員		
会次第	1 開会 2 報告・協議 (1) 第三次鹿児島市健康増進計画「かごしま市民すこやかプラン」について (2) 鹿児島市健康増進計画推進アドバイザー（仮称）の派遣について 3 その他 4 閉会		
主な決定事項	○ 第三次鹿児島市健康増進計画「かごしま市民すこやかプラン」について【了承】 ○ 鹿児島市健康増進計画推進アドバイザー（仮称）の派遣について【了承】		
○主な意見	<p><b>3 報告・協議</b></p> <p>(1) 第三次鹿児島市健康増進計画「かごしま市民すこやかプラン」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こころの健康について。 (委員) こころのケアは誰がしているのか。産業医か、心理カウンセラーなどか。 ⇒【事務局】産業医がいるところは産業医が、その他は相談できる機関につなぐ形と考える。</li> <li>⇒(他委員より) 産業医は50人以上の事業所では選任義務があり、従業員のメンタルケアやラインケアを行っているが、対処できない場合は外部機関に依頼する形となっている。また、50人未満で産業医がいない事業所は産業保健総合支援センター等で相談を受けている。そのほか支部である産業保健推進センター（県内5つ）を紹介するなどしている。</li> <li>⇒(他委員より) 職場では、産業医につなぐ前に所属長などの身近な人がどのような取組ができるかが日々の活動の課題である。産業保健総合支援センターは様々なジャンルの講義をしており、参考になるのでぜひ確認いただきたい。 (参考：「鹿児島産業保健総合支援センターHP：https://kagoshimas.johas.go.jp/」)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次世代の健康について (委員) 「朝食を毎日食べる人の割合」は、中・高生で低くなっているが、原因は。 ⇒【事務局】健康教室等での感触では、中高生の場合、夜更かしにより朝起きられない、親が仕事等で忙しく朝ごはんの準備ができない等によるものと思われる。</li> <li>・高齢者の健康について (委員) 「社会活動を行っている高齢者の割合」は男性の方が高くなっているが、普段高齢者の方たちと関わる中で、男性より女性の方が地域で活発に活動しているように思う。実際に市老連の老人クラブの会員は女性の方が多い。逆転の理由は何か。社会活動する側とされる側などとらえ方の違いか。 ⇒【事務局】市民意識調査の結果である。社会活動のとらえ方などが影響したと考えられる。</li> <li>・鹿児島市健康づくり推進市民会議団体について (委員) 鹿児島市健康増進計画は、行政だけでなく民間の団体、市民と一緒に取り組む計画であるという認識でよいか。市民会議団体の取り組み等はどこかに発信しているのか。いつから開始し、今後増やす計画はあるか。</li> </ul>		

⇒【事務局】鹿児島市健康づくり推進市民会議団体は、第一次計画時から、市民、関係機関、団体及び市が一体となった健康づくり運動を推進するために発足しているものである。登録団体の活動内容や募集等については、市のホームページで行っているほか、広報紙の発行機会などをとらえて発信し、案内を行って活動団体の増に取り組んでいる。

**(2) 鹿児島市健康増進計画推進アドバイザー（仮称）の派遣について**

（委員）アドバイザーの任期はあるのか、予算はどの程度あるのか、何回程度派遣予定であるか。

⇒【事務局】アドバイザーは登録制とし、特に任期は定めない予定である。予算については、今年度は10回程度の実施を見込んだ金額を計上している。